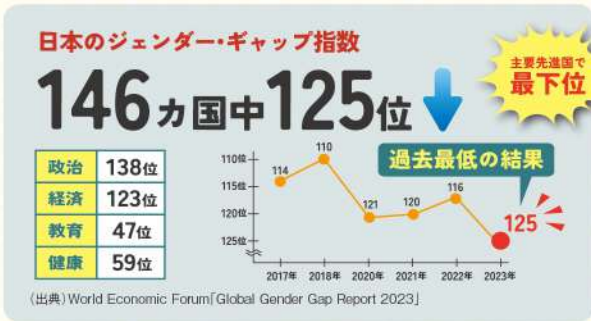




ジェンダーに関するDATA集

ジェンダー不平等「日本」



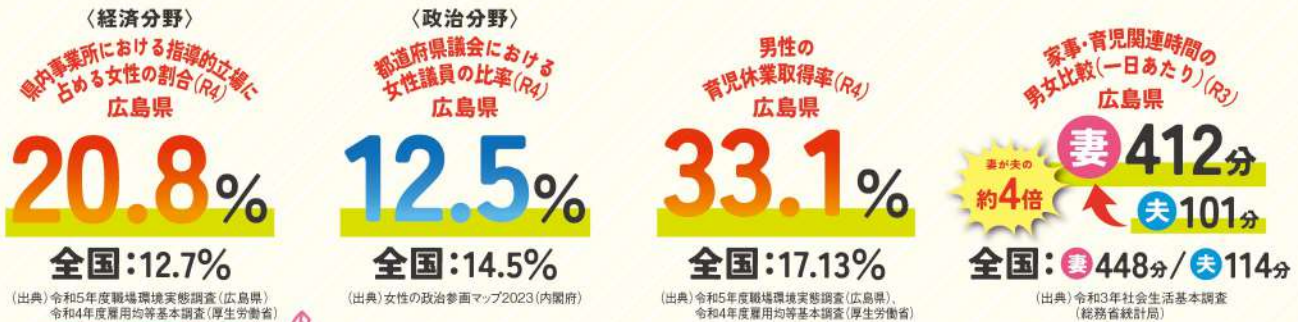
「ジェンダー・ギャップ指数」とは、世界経済フォーラムが毎年発表する男女格差を示す指標で、2023年の日本は146カ国中125位と過去最低の順位でした。主要先進国(G7)の中で最下位で、アジア諸国の中でも下位に位置します。特に、政治と経済の分野で格差解消が進んでいません。

Q.女性が政治や経済の分野で決定権を持つと、何がいいの？

A.政治や経済の中心を占める男性とは異なる経験や知見による多様な意見が反映されることで、誰もが暮らしやすい社会に近づくことができます。

広島県のように

全国平均と比べると、指導的立場(役員・管理職)に占める女性の割合は高いですが、都道府県議会における女性議員の比率は低い状況です。男性の育休取得は進んでいますが、家事・育児関連時間は、今なお女性が男性の4倍ほどの時間を費やしています。



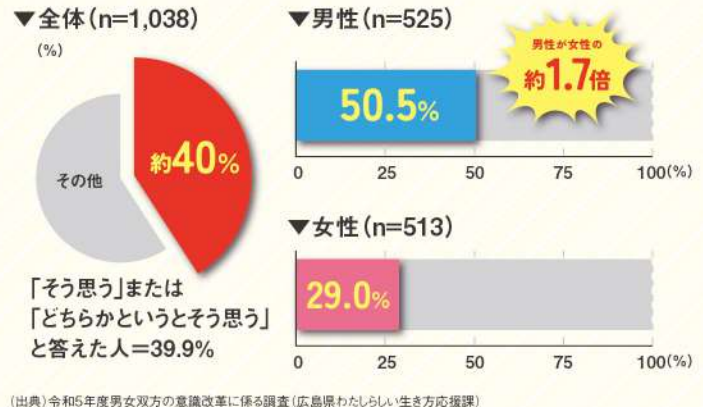
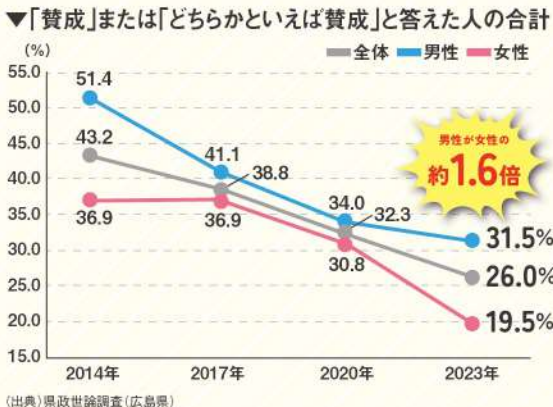
それって、性別による役割分担意識が根底にあるかも？

広島県民の意識調査

こういったジェンダー意識にとらわれてない？

●「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

●「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたほうがよい」という考え方について(2023年)



夫婦の伝統的な役割意識は明らかに減少傾向です。しかし、減少ペースには女性と男性とで差があり、最新の調査でも男性の31.5%は賛成と答えています。

回答には女性と男性で大きな差がみられました。性別による思い込みや決めつけが、子育てを通して子どもにすり込まれている可能性があります。

